

栃木県における小児・AYA世代のがん罹患状況について

20cm×20cm
演題番号貼付スペース

細田恭平¹⁾ 菊地康子²⁾ 芦沢和恵²⁾ 生出義美²⁾ 岩崎宏貴¹⁾ 大木いずみ²⁾ 3) 藤田伸²⁾
1) 栃木県保健福祉部健康増進課 2) 地方独立行政法人栃木県立がんセンター
3) 公立大学法人埼玉県立大学


【背景・目的】

- ◆栃木県では、2021年度より小児・AYA (Adolescent and YoungAdult : 思春期と若年成人) 世代のがん患者等支援事業を開始した。
- ◆罹患数は成人に比べて非常に少なく、がんの種類も異なる。対策においても、一次予防や検診といった一般的な対策では対応できず、特徴にあった対応が求められる。
- ◆ライフステージ別に対策を立案・評価するためにも、全国がん登録を活用して栃木県における小児・AYA世代のがん罹患状況を把握することが必要である。本解析では栃木県の小児・AYA世代のがんの特徴を把握することで、さらなる栃木県のがん対策の充実・患者支援を行うことを目的とした。

【方法】

- ◆全国がん登録（診断時住所が栃木県である栃木県がん登録）2016年～2019年診断症例の小児・AYA世代（診断時年齢が0歳～39歳）を対象とした。
- ◆集計対象を浸潤がん（C00～C96）のみとし、性別、年代別、部位別、地域二次医療圏）別に集計した。

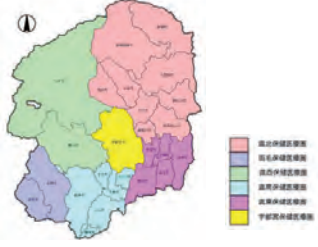
栃木県



- ◆栃木県は、北関東に位置している。
面積：6,408 km²（全国で20位）
人口：約190万人（2023年4月1日現在）
- ◆病院：107施設、診療所：1,189施設
都道府県がん診療連携拠点病院：1施設
地域がん診療連携拠点病院：5施設
地域がん診療病院：2施設
栃木県がん治療中核病院：11施設
その他の病院：88施設
指定診療所：6施設（2023年5月1日現在）

【結果】

二次医療圏 圏域図

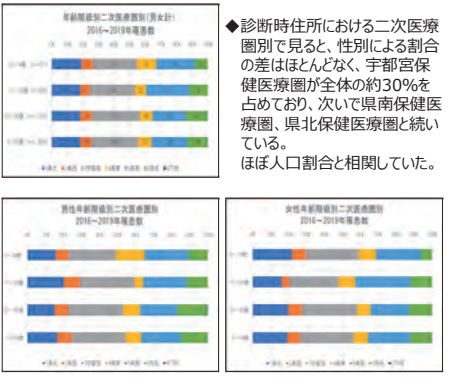


【罹患数】

年齢（歳）	男性	女性	合計
0～14	57	64	121
15～29	148	161	309
30～39	322	716	1,038
合計	527	941	1,468

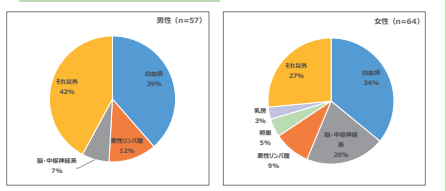
◆30～39歳の男女比については、女性が男性の2倍以上の罹患数になっているが、これは、乳房及び子宮頸部の症例の増加によるものである。

【年代別二次医療圏別罹患割合】



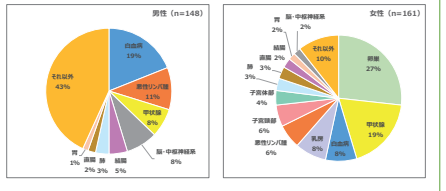
【年代別部位別の内訳】

「0～14歳症例」



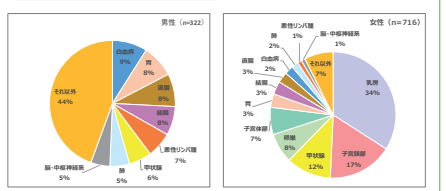
◆男女ともに白血病の症例数が最も多い。男性では、悪性リンパ腫、脳・中枢神経系と続き、女性では脳・中枢神経系、悪性リンパ腫と続いている。

「15～29歳症例」



◆男性は白血病、悪性リンパ腫、脳・中枢神経系・甲状腺と続いている。一方女性では、卵巣、甲状腺、白血病・乳房が続いている。

「30～39歳症例」



◆男性は白血病、胃・直腸・結腸と続いている。0～14歳で多かった白血病等の割合が減少、女性については、乳房、子宮頸部が上位である。

【結論】

- ◆栃木県では、年齢階級別の罹患率が高いがんの種類や罹患数全体に占める小児・AYA世代の罹患数割合について全国と同様の傾向が見られた。
- ◆今回の結果を踏まえ、現在実施している妊孕性温存療法等の支援に加え、年齢階級別に効果的な患者支援ができるよう努めていきたい。

日本がん登録協議会第32回学術集会
COI開示
筆頭演者名：細田 恭平
当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。